

## 所沢市議会政策研究審議会会議記録（概要）

令和3年4月19日（月）

開 会 （午前10時0分）

### 1 開 会

入沢副議長

ただいまから、所沢市議会政策研究審議会を開会いたします。

皆様、本日はお忙しいところ、またコロナ禍の中、御出席いただき、誠にありがとうございます。私は、本日の進行をいたします所沢市議会副議長の入沢豊です。よろしく申し上げます。

はじめに、末吉美帆子議長より御挨拶申し上げます。

### 2 議長あいさつ

末吉議長

公私ともに御多忙のところ、所沢市議会政策研究審議会にお集まりいただき誠にありがとうございます。開会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

本年1月22日に1回目の政策研究審議会を開催し、私から2件の諮問をさせていただきました。本日は、その諮問に対する答申をいただき、また、議員との意見交換があると伺っています。

所沢市議会基本条例の制定から10年が経ち、市民生活及び市議会並びに行政を取り巻く環境も刻々と変化をしています。特に、新型コロナウイルス感染拡大の終息が見えない中、コロナ対策をはじめ、私たち議会に求められる市民の期待は、より大きなものになっていると感じています。

議会基本条例の前文におきまして、「議会及び議員は、より一層の市民からの信頼に応えるため、積極的な情報の公開を通じて説明責任を果たし、議会諸活動への市民の参加のもと、平等の権利を有する議員相互の自由闊達な議論を展開しながら、市政の論点を明らかにして、政策立案及び政策提言を積極的に行っていかなければならない。」との思いが示されています。本審議会の御審議を通じて、この市議会の思いを具現化し、ついでには議会の役割を果たしていくためにも、委員の皆様のお力添えをいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

入沢副議長

次に、本日は、過半数の委員の御出席をいただいておりますので、審議会条例第6条第2項の規定により、この会議は成立しております。

次に、配布物について確認させていただきます。本日の次第、扇原会長にまとめていただきました答申書（案）をお手元のパソコン、iPadに保存させていただきます。

なお、本日の会議の所要時間は、1時間半程度を目処としておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、ここからの議事進行につきましては、本審議会条例第6条第1項の規定に基づきまして、扇原会長にお願いいたします。

### 3 議事

#### (1) ①答申書の提出について

扇原会長

議題1は「答申書の提出について」です。

1月22日の審議会におきまして、末吉議長より2件の諮問事項をいただきました。前回の審議会で、委員の皆さまから諮問事項2件についての、それぞれのお考え、御意見をいただきました。それらをもとに、私のほうで整理しまとめたものを、本日お手元に答申書（案）という形でお示ししています。本日は、この答申書（案）をもとに御審議をお願いしたいと思います。

それでは、各諮問事項に対する記述について、確認していきたいと思えます。所沢市議会災害対応等マニュアル議会機能継続計画（BCP）（案）については、いかがでしょうか。

廣瀬委員

1点、表現上の細かいことですが、（1）①「オンライン会議をいつから実施するといった一定の期間」について、いつまでにどこまで進めるのかということを明記した計画にしたほうがよい、という趣旨であったかと思えます。実際にオンライン会議をするかどうかは、感染状況や様々なことで決まるとは思いますが、制度としてこのように実施できるように進めるという意味では締め切りを設定したほうがよいということかと思えますので、例えば、「オンライン会議をいつから実施できるようにするといった一定の期間」と修正してはいかがでしょうか。

扇原会長

「オンライン会議をいつから実施できるようにするといった一定の期

間」に修正したいと思います。よろしいですか。

(委員了承)

次に、教職員の働き方改革に関する取り組みについてはいかがですか。

角田委員

「職場管理とは、」というところで、「残業代が増える」とありますが、強調しすぎという感じがします。過度に省エネをしすぎると作業効率が落ちて、結果として普通の企業で残業代が増えるという話をしただけなので、作業効率が落ちる程度の話でよいので、「過度な省エネは作業効率が落ちるといった作業環境についても着目し、」のほうがよいと思います。

扇原会長

それでは、「過度な省エネは作業効率が落ちるといった作業環境についても着目し、」に修正したいと思います。他に何かありますか。よろしければ、ただいま各委員からいただいた御意見を反映させた案文を用意いたしますので少しお時間をいただきたいと思います。

案文を用意している間、議題2を進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。(委員了承)

## (2) 議員との意見交換について

扇原会長

今回は、時間が取れなかったもので、本日は活発な意見交換ができればと思います。

進め方につきましては、初めに各委員より、それぞれ御専門の立場から、

議会や市政の参考となるような御意見、情報などについて御発言をいただきたいと思います。その後、議員からは、各委員の発言に対する質問や御意見について、御発言いただく形で進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

角田委員

今日の午後に研修会が予定されています。午後1時30分から、感染症の基本的な知識のお話を大体1時間ぐらいで、また30分程、質疑応答の時間をとっていただいておりますので、時間が許す限りぜひ御参加をお願いいたします。

西久保委員

コロナ禍ではありますが、自治会の方と意見を交換する機会がありました。その中で、いろんな方にお会いして情報を交換する機会が少ないことや、様々な自治会で活動自粛という形になってしまっていて、自治会の活動がなかなかうまくいかない、その辺のジレンマが大いにあります。自治会でも活動自粛はもとより、会員との意思の疎通を図るにはどうしたらよいかなど、様々な形で負荷がかかっているとのことでした。それらの点は、議員もいろいろな方からそのような話は聞いていると思いますが、その辺は市民としてもいつも胸にわだかまりを抱えて、負荷を抱えて活動しているという状況です。

もう1点は、新型コロナワクチンの接種がどうなるのかということがいつも話題になっています。所沢市でも1,500人分ぐらいしかないとい

う話があって心配していますが、そのことは我々の健康を含めてこれからうまく進んで行ってくれないかな、と市民同士、特に高齢者は思っています。審議会とは関係ない話ですが、私が申すまでもなく一番、市民として気になることだということを議会のほうも承知していると思いますが、そんなことでお話をさせていただきました。

廣瀬委員

最近いろいろなところで、感染症という状況の中で議会という場そのものがリスクコミュニケーションの重要な機関なのではないか、というふうなことを発言させていただいています。

ぎょくせきこんこう  
玉石混交の様々な情報が乱れ飛んでいて、どれを信じていいのかというのが今一つよくわからない。最近、変異株のウイルスは従来と違うのではないかと、これまた断片的な情報が散発的に出てくるわけですが、このように日々変わっていく状況とか科学的なエビデンスが、どこまではっきりしていて、どこまで分からないか、そういうことについて何となくテレビの全国放送の情報バラエティ番組が、結局、1番影響力を持ってしまっているというような印象がどうしても拭えないのです。例えば、所沢という立地条件で言うと、埼玉県全体の情報を参照することが的確なのか、むしろ東京の情報を参照したほうが実態に近いのか、あるいは東京の中でも今、蔓延防止等重点措置が取られている23区と多摩の一部の市、それ以外の市との間で都内でも対応が異なっているが、その中で隣接

している所沢市はどれぐらいの感覚で捉えるべきなのだろうか、特に首都圏近郊は東京中心の全国メディアが発達している分だけ、ローカルな情報に触れる機会は住民を含めて相対的に乏しい地域だと思います。そのところで、所沢の状況は今こういうふうに見るべきだとか、所沢の地域で生活していくうえでは特にこういうことに注意が必要だということについての情報提供、信頼できる情報はこれで、これはちょっとまだ眉唾で見ておいたほうがいいのか、そういうことの判断材料を議会で議論されていること、あるいは閉会中であれば、所管委員会の閉会中の所管事務調査などで状況をウォッチしていただいて、それについて検討の議論もされ、その結果が、できればこのような状況ですので速やかに発信されることが期待されます。それを通して市民がローカルに所沢において、今、生活の中で気を付けるべきこと、何はそんなに過剰に気を付けなくていいけれども、ここは押さえておかないとまずいよ、というメリハリがきいた判断の根拠になる情報を伝えることが大事ではないでしょうか。これは私の主観的な思い込みかもしれませんが、東京に行くことについては、かなりそれなりに身構えるというか、緊張感を持って、特に不要不急の買い物や遊びに行くことは、控えられるのなら控えたほうが良いという感覚が市民の間にそれなりに浸透していると思います。ちょっと近所の駅前の商業施設まで買い物に行くということは、日常生活の上で必須でもあるし、そんなに気にすることではないんだという感覚もあり、週末の駅前近辺とか市内の人出を見ていると、それなりに、あまり以前とは変わらないような印象を受け

ます。本当にそれで大丈夫なのか、その時にここさえ気を付ければ大丈夫ということがはっきりするのであれば、そのことだけは徹底できるようにしていく必要があると思います。今日の午後も、研修会を専門の第一線からの情報を市議会として得られるわけですから、その中のエッセンスをまた市民に向けても発信していただけるような、そういう役割を担っていただきたい。まさにリスクコミュニケーションの要の1つとして市議会が機能していただく必要の高い、そういう状況にあるのではないかなと、昨今の行政を取り巻く状況を見ているとそんなふうに思います。

扇原会長

今回、教職員におけるICTの連携を答申で述べましたけれども、このコロナ禍の状況で、生活困窮支援や緊急貸付期限が延長された福祉分野では、対面での面接におけるコロナ感染のリスクを考えたとき、テレビ会議システムを含むICT連携と合わせて、個人情報保護とのバランスをどう考えていくのか活発に議論していくことが必要ではないかと感じています。

リスクコミュニケーションというキーワードも出てきましたが、エビデンスに基づくと言ったときに議員の皆さんも住民から丁寧にヒアリングされ、議会で質問されることも多々あることも存じていますが、庁内にある情報を利活用して、庁内で分散している情報を統合して分析できるようなシステムをぜひ構築していただけますと、エビデンスに基づく政策議論が可能になるかと思います。この点については、今後、市の課題としてと

らえていただけたらと思っています。

島田議会改革  
に関する特別  
委員会委員長

答申書（案）を拝見して、非常に議会サイドを応援してくれているような印象を持ちました。オンライン会議をいつから実施できるという形で期限を設定すべきという話をいただきまして、まだ議会サイドの機材の関係であるとか、委員会をオンラインでやった場合の公開の仕方、例えばYouTubeを使うのか、そういった話も出てくると思いますので、その辺も今後、整理しながら早い段階からオンライン会議を実施できるように委員会のほうでまた議論を進めていきたいと感じたところです。

また、「各地域での議員活動が委縮しないよう、」ということも大変ありがたく思っております。宮城県の東日本大震災の時の議事録等を拝見した中で、執行部が議員対応で混乱したようなことが書いてあったことから、そのような配慮もさせてもらってBCPに盛り込んだところではあるのですが、こうした答申を受けたということで委員会で議論させていただきたいと感じました。

荻野議会改革  
に関する特別  
委員会副委員  
長

先日、私の家族がのどに痛みがあり病院へ行き、前日に微熱があったということでPCR検査を受けてくださいとなり受けたのですが、結果が出るのは2日後ぐらいだったので、その間は私も外出を控えてくださいと言われました。そうしたことは結構あり得ることだと思うのですが、そういうこともBCPに書き込んだほうがいいのか、そのことについてはいかが

でしょうか。

角田委員

議論が分かれるところだと思うので、書き込むまではどうかなという気がします。結局、濃厚接触者であるから様子を見ましょう、というところなので、それで2日間見てくださいということですが、結局微熱とか起こす疾患は幾らでもあるので万全を期すということなんです。そうすると、外出を控えるのは一律に絶対にそうすべきかどうかというのは議論が分かれるところだと思いますので、それはケースバイケースで何とも言えないところがあると思います。

先ほど変異株の話がありましたが、外国の文献とかいろいろな調査ですと、変異株が特に毒性が強いという話はなくて、ウイルスは変異するものなので配列が異なることは常に多いです。ただ、遺伝子の配列が異なっても作り出すたんぱくはそんなに変わらないので、予防接種で抑え込めるというのはイギリスの例から比べると、大体日本並みに減っているのも、ものすごく多かったものが。だからまだ、現状の対策にプラスすることはそんなにないかな、というところなんです。ただ、唯一言えることは、初期のウイルスだと8日間を過ぎると感染しないと言われていたのですが、変異株はもうちょっと長いのではないかとということで、それで2週間が今スタンダードになりつつあるのは、変異株はややしぶとい、ちょっと感染性が強いということです。リスクコミュニケーションの話が出ましたが、私たちが医学的にこうしたほうが良いと言っても、感情の問題とかリスクをう

まく伝達することが社会全体に、今までもそうですが、うまくできていないところがありますので、その辺は行政、議会からの発信をぜひお願いしたいかなと思います。今日の研修の内容が、少しでも今後のリスクコミュニケーション、例えば予防接種はやったほうが良いと医学者から言うのですが、何となく不安だとか、そういうのが社会全体で日本は格段に多いのです、世界的に比べて。それを、どうリスクをうまく伝えて、コミュニケーションをするというのは、医療者だけでは到底無理なので、こうした活動を通じて広げていきたい、やっていただきたい、お力をお貸しいただきたいと思います。

荻野 議会改革に関する特別委員会副委員長  
BCPの策定が終わりましたら、議会基本条例全体の見直しもこれから考えていますが、5年前にも特別委員会で大幅な見直しをしました。当時参考になる他の自治体の事例がなかなか少なかったんですが、基本条例の見直しについて参考になる自治体を御紹介いただければありがたい。

廣瀬 委員  
条例レベルで大きく変えることというよりは、条例に基づいた様々な活動の中でここに力を入れようということに、いろいろ積極的に動いている自治体では展開があるのかなと思っています。条例の見直しでいえば、岐阜県高山市議会も結構熱心にやっておられますけれども、ならば条例、条文の見直し等において、所沢市議会が直接参考になるかということ、必ずしもそうではないような気がいたします。地域性の違いももちろんあります

し、日本で1番広い、広大な山間地を含んだ2,000㎢の自治体であることを踏まえて市民をどう統合していくか、市民のコミュニケーションをどうするのかという観点で、議会において地域の若者をどう地域につなぎとめるかという観点で非常に特徴的な高校生議会をやっておられたり、そのようなことは所沢の地域性に合っているかという点、多分違う。そのような観点で言うと、所沢は所沢の、例えばこの審議会を持っているということはあまりほかの自治体が追随してきていないところなんだけれども、所沢市議会としてこのような機関を持つことによって何がメリットで、何がまだうまく活用できていないのかということ掘り下げていただいて、もっと生きるようするにはこんなふうな、例えば諮問の出し方であったりとか、会議の開催の仕方であるとか、そういうことについて実態的に知恵を絞っていただいて、その時にそれをやるために必要な条文上の配慮があったほうがやりやすいとか、そのようなことがあるようであれば、そういうことを条文に落とし込まればいいし、そうでなければ審議会に関する条例や要綱で見直していく。だんだんそういう意味では、基本条例というレベルよりも様々な取組の要綱であるとか、規則などに改革の具体的な焦点は移っていくのだろうと思っています。

B C Pに関連して、1点補足で、オンラインでの会議の開催について当然ながら検討し、先ほどいつから開始できるか想定していただきたいと申し上げました。これは当然、予算措置や環境整備などによって律速されることは想定されて構わないと思うのですが、もう一つ、先ほど濃厚接触で

もなくてさらにその手前の検査待ちの疑いぐらいのときに、あまり人と接触しないでください、という外出自粛を求められ、これは極めてグレーゾーンの行動の自粛なのですが、例えば委員会が予定されている日にそうなってしまった場合に欠席すべきなのか、出席なのかというときに欠席と出席の中間の選択肢として、ある特定の人はこの事情があるのでオンラインで出席するという選択肢を増やすことは、当面この状況の中ではまだしばらく現実的に対応しなければいけない課題であると思います。議会全体として対面の会議を開催することは可能だと判断できるとしても、出席者の個人における感染リスクは完全になくなるわけではないし、あるいは周囲の感染によって警戒しなければいけない、自粛しなければいけない状況に個別には立たされる場合が有り得るわけですから、それでも議会にあまり大きな支障をきたさないけれども、感染リスクについては万全に抑えられるように、条件整理という位置づけも意識されながらオンラインと実体的な会議のハイブリットをうまく活用するという観点も強調されていっていいのかなと思いました。

植竹市民文教  
常任委員会委  
員長

市民文教常任委員会においてはこの2年間、今回諮問した教職員の働き方改革に関する取り組みについて様々な形で取組を進めていき、現状を把握し、さらに所沢市内における教職員の働き方に関する課題を認識し、今回4つの項目を掲げて諮問させていただきました。

提言をまとめるにあたって、妥当性を認めていただいたことは本当に心

から感謝いたします。今後、所沢市においては平成29年に設置された教職員による業務負担検討委員会の今後の議論と取組が非常に重要であると認識させていただきましたので、そのようなことも踏まえ、また業務負担軽減委員会は5年目を迎えますので、そういったところを今後しっかりと委員会として注視していくことが、非常に重要であると認識させていただきました。様々な形でさらに財源の確保またはマネージメントできる人材の確保等、さらに今回アドバイスをいただきましたので、そのようなこともしっかりと踏まえて提言をまとめ、委員会として教職員の働き方改革の改善に向けて1つでも糧になる提言をまとめていきたいと思っています。

矢作市民文教  
常任委員会副  
委員長

専門的な立場からの答申で大変参考になると思っています。私は議会改革に関する特別委員会の委員も兼ねておりまして、その意味でも大変参考になると思っています。

以前に市民文教常任委員会の中で、先ほどからお話が出ておりますコロナ禍の中で、実は保護者の方々の御意見もうかがいたいという案も出たのですが、なかなか難しかったこともあり、ICTに関してはこれから行政分野での活用も含めてということで答申の中でも触れられているかと思いますが、いただいた答申も踏まえて議会活動も議員の皆さんと力を合わせて取り組んでいければと思っています。

扇原会長

ただいま答申書（案）が御用意できましたので、戻りまして議題1を進めます。

(1) ②答申書の提出について

扇原会長

答申書（案）を御確認ください。

（委員は、修正案を確認。）

ただいまお示ししております案をもって答申とすることよろしいですか。

（委員異議なし）

それでは、末吉議長に答申書をお渡ししたいと思います。

（扇原会長が別紙の答申書を読み上げ、末吉議長へ手渡す。）

（答申書は、別添のとおり。）

末吉議長

ただいま、答申書を受け取らせていただきました。

議会としてしっかり受け止め、この後、所管の委員会において、いただいた答申を踏まえ課題に取り組んでまいります。

また、前回の会議で扇原会長から御発言がありましたように、今後、この答申がどのように本案件に反映されたのかをお示しできるよう、その方法も含め協議してまいります。

本日は、ありがとうございました。

扇原会長

答申の内容につきましては、議会内で共有していただき、各委員会ですらに議論を深めていただければと思います。よろしくお願いいたします。

また、議長からもございましたが、本答申が本案件の協議結果あるいは結論にどのように反映されたのか、今後の審議会の審議の参考のために、本審議会に対しても御報告をいただければと思います。

委員の皆さんも、また議員におかれましても本日の情報等を共有され、必要に応じて近めていただくなどぜひ御検討いただきたく思います。意見交換、答申については以上です。

(3) その他

扇原会長

委員の皆様から、何かありますか。

廣瀬委員

議会活動に関し、今、感染者が増えている状況にあるのですが、例年ですと議会報告会を開催する時期である5月を間もなく1か月後ぐらいに迎えようとしているわけですが、この感染状況の中で本年度について今、具体的な計画があれば教えていただきたい。

議会機能継続のBCPですが、議会機能の中にはもちろん審議・議決、行政の監視も含まれますが、市民との意見交換も議会の重要な機能だと思っていますので、その面でのBCPもぜひ意識していただいて、この状況の中でももちろん活動のやり方によっては感染リスクを広げてしまうような形で活動されることは望ましくないと考えますけれども、そのバランスをと

ってリスクを管理しながら、どういう形ならばできるかということを検討いただければありがたいかと、これはどちらかということも市民の立場からお願いたしたいところです。

末吉議長

現在、議会内ではWebexを利用して、この定例会中に正副委員長連絡協議会をオンラインで開催しました。御指摘いただいたように、昨年度は議会報告会、市民との意見交換について、対話形式で実施することができませんでした。

今年度に関しましては、広聴広報委員会において、5月に2回開催予定の議会報告会はオンラインで開催する予定です。現在、準備を進めているところですが、副議長が広聴広報委員なので進行状況は副議長から御説明いたします。

入沢副議長

5月22日午後1時30分からと26日午後7時から、いずれもオンラインで議会報告会を開催いたします。参加者は、事前の申し込み制にし、自宅等任意の場所から、また自宅等からアクセスできない参加者には全員協議会室にお越しいただき、また担当議員は議会会議室に集まり、Webexでつなげて市民の質問に答える形です。

広聴広報委員会において一度試してみましたが、実際にやってみると環境によるのか、聞きづらかったり止まることも正直ありました。こういった点も含め、多少改善を加えて進めていく予定です。班会議も行われてい

と思いますが、広聴広報委員会以外の議会報告会に出る議員の中には、慣れていない方が多いので実際は1度勉強会のようなものを行い、議会報告会の当日に備えていただく予定です。当日ハプニングも起きると思いますが、実際にやってみないとなかなかできないので、今回やらせていただく予定です。

末吉議長

昨年は所沢市制施行70周年で、市議会も70周年だったわけですが、その記念もできませんでした。このため、70周年の記念動画を広聴広報委員会で作くり、YouTubeで配信しています。

また、毎年12月に議場コンサートを定例会初日にやっていますが、それについてもYouTubeで配信することを昨年からはじめています。

Webex、YouTubeの活用を模索しながら進めていますが、議会運営委員会にはICT作業部会があり、そこで進めているところです。部会長の松本部会長から何かありますか。

松本議員

議会運営委員会の中にICT作業部会があり、予算措置をしていただいで一定の機材はそろいました。Webexで、採決を伴わない各委員会の会合等について、試験的にやってもらうことをお願いしています。

先週、建設環境常任委員会で行いまして、それぞれスムーズにお互いの意見交換ができました。なお、副議長から話がありましたが、今回の議会報告会は自宅からでも参加できる段取りになっていると思います。

扇原会長

議会もICT化が進み、報告会もオンラインでできるということ、非常に期待しています。ICT化を推進するにあたり、特に福祉の分野では、高齢者はスマホを使わないから、現状のまま紙ベースの手続きを進めたいという議論もあるのですが、海外の電子政府化が進んでいる国々の高齢者施設では、折り紙とか塗り絵の講習をするのではなくて、スマートフォンの使い方の講習をしています。その理由としては、街に出たときに、どこもオンライン決済が主流となっているので、銀行の支店もなく、どこで買い物をするにしても現金決済ができない状況があります。日本でも、スマートシティ、スーパーシティ構想が進められていますが、今回、同様の社会になることが考えられますので、できない人をできないままにするのではなくて、できない人たちにどんな支援ができるかという視点で取り組むのかということも必要なのではないかと思います。高齢者が使えないからICT化をやめましょうではなくて、使えない人たちが使えるようにどう支援が可能なのかという議論をしていただければと思います。

扇原会長

他に何かありますか。以上としてよろしいですか。

(委員了承)

それでは、本日の議事を終了しお返しいたします。ありがとうございました。

入沢副議長

#### 4 閉会

それでは、これもちまして本日の審議会を閉会いたします。

皆様におかれましては、慎重な御審議をいただき、ありがとうございました。

閉 会 (午前10時52分)